

オリンピックアジェンダ 2020について

1 「オリンピックアジェンダ 2020」の概要

IOCのバッハ会長就任後に打ち出されたオリンピック・ムーブメント改革の方針で、40の提言から構成

<経緯>

2013年12月	IOC理事会	「アジェンダ2020」のとりまとめを決定 14の作業部会にて検討
2014年11月	IOC	40項目の提言案を発表
12月	IOC臨時総会	原案どおり全40項目の提言を決議

2 提言の主な内容

(1) 既存施設や仮設会場の活用推進

持続可能性や長期的なレガシーの視点から、既存施設の最大限の活用や仮設会場の活用を積極的に推進

(2) 開催都市以外での競技開催

地理的要因や持続可能性の理由により、一部競技又は種目について、開催都市以外での開催や、例外的に開催国以外での開催が可能

(3) 競技に基づくプログラムから種目に基づくプログラムへの移行

定期的なプログラムの見直しを以下の制約の中で実施

- ・夏季大会 選手人数 約10,500名、種目数 約310種目
- ・冬季大会 選手人数 約2,900名、種目数 約100種目

(4) 組織委員会による種目の追加提案

開催都市の組織委員会から、当該大会について一つ又は複数の種目の追加提案が可能

(参考) 40の提言

提言1	開催を検討する都市の招致プロセスへの招待
提言2	主な機会とリスクの評価による候補都市の審査
提言3	招致コストの削減
提言4	オリンピック競技大会のあらゆる側面での持続可能性の視点の導入
提言5	オリンピック・ムーブメントの日常的活動への持続可能性の視点の導入
提言6	他のスポーツ・イベント開催者との緊密な協力
提言7	さまざまな能力を持つ人を対象とするスポーツの運営組織との関係強化
提言8	プロスポーツの運営組織との関係強化
提言9	オリンピック・プログラムのための枠組みの設定
提言10	競技に基づくプログラムから種目に基づくプログラムへの移行
提言11	男女平等の推進
提言12	オリンピック競技大会の費用の削減及び運営の柔軟性の強化
提言13	オリンピック・ムーブメントの関係者との相乗効果の最大化
提言14	オリンピズムの根本原則第6項の強化
提言15	クリーンな選手を守るための理念の変更
提言16	クリーンな選手を守るためにIOCの2000万ドルの基金を拠出
提言17	クリーンな選手に対する称賛
提言18	選手への支援の強化
提言19	オリンピック・チャンネルの立ち上げ
提言20	戦略的パートナーシップの締結
提言21	IOCの提唱力の強化
提言22	オリンピックの価値に基づく教育の普及
提言23	コミュニティとの交流
提言24	「希望のためのスポーツ(Sport for Hope)」プログラムの評価
提言25	ユース・オリンピック競技大会の位置づけの見直し
提言26	スポーツと文化の融合促進
提言27	良好なガバナンスの基本原則の遵守
提言28	国内スポーツ団体の自立性の支援
提言29	会計基準に関する透明性の向上
提言30	IOC倫理委員会の独立性の強化
提言31	コンプライアンスの確保
提言32	倫理の強化
提言33	「オリンピズム・イン・アクション」プログラムへのスポンサー関与の強化
提言34	グローバル・ライセンス・プログラムの展開
提言35	トップ・スポンサーとNOCとの関係の強化
提言36	非営利目的のためのオリンピック・ブランドの利用の拡大
提言37	IOC委員の定年に関する取組
提言38	対象を絞ったIOC委員採用プロセスの推進
提言39	社会及びオリンピック・ムーブメント内での対話の促進
提言40	IOC専門委員会の所掌範囲と構成の見直し